

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平成30年度 兵庫県農業気象技術情報第6号(10月情報)について(送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県共通	<p>1 生育 中～晩生品種の出穂期は平年並～やや遅かった。成熟期は平年並になると見込まれる。</p> <p>2 病害虫 ヒメトビウンカの発生は平年並みと予想される。</p>	<p>1 生育 出穂後の積算温度は1,000℃～1,050℃が必要で、適期収穫に努める。収穫籾は急速に乾燥させないように注意する。毎時乾減率の目安は、0.8%以下である(酒米は0.5%以下)。</p> <p>2 病害虫 イネの刈取り株のひこばえはヒメトビウンカの生息場所となるので、今年、縞葉枯病が発生した地域では収穫後すみやかにすき込む。</p>
大豆	全県共通	<p>1 生育 普通大豆、黒大豆ともに、台風の降雨等の影響により、着莢数はやや少なく、生育も遅れ気味である。 黒大豆では湿害による生育不良や茎疫病の発生が見られる。</p> <p>2 病害虫 (1) 立枯性病害は、やや多い発生と予想される。 (2) 吸実性カメムシ類、ハスモンヨトウはやや多い発生と予想される。</p>	<p>1 生育 普通大豆は適期収穫に努める。「サチユタカA1号」は難裂莢性であるが、適期に収穫する。 <刈取り適期の目安> ・子実水分20%程度(莢を振ると音がする)になったとき。 ・コンバイン収穫の場合は、茎水分50%以下になったとき。目安としては茎がやや黒みを帯びて、手でポキッと二つに折れるとき。刈取り前には青立ち株を引き抜く。 黒大豆は排水対策に努め、土壌水分を適切に保つ。</p> <p>2 病害虫 (1) ほ場の排水対策を行い、発病しにくい環境を作る。 (2) ほ場をよく観察し、必要に応じて防除を実施する。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
麦	全 県 共 通	<p>1 栽培管理</p> <p><播種準備の留意事項></p> <p>(1) 計画的な播種を行うため、水稻刈取り後、出来る限り早く、ほ場の排水対策を行う。</p> <p>(2) 出芽、初期生育を良くするため、ほ場のpH調整を十分に行う。pHが低いと生育不良を招く。</p> <p>(3) 有効茎数を確保するため、地域に合った播種時期・播種量とする。</p> <p>(4) 施肥播種機の調整をしっかりと行う。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 水稻の刈取り後、耕うん前に弾丸暗きょや額縁明きょを設け、表面排水を行う。特にほ場の四隅がコンバイン収穫時に轍(わだち)ができないようにする。本暗きょがない場合は、通常の弾丸暗きょの設置に加えて、排水口手前を40cm程度掘り下げ、3本程度の放射状の弾丸暗きょをサブソイラーで施工する。</p> <p>(2) 石灰質資材は早めに施用し、土壌pH6.0～7.0になるように調整する。土壌pHが低いほ場は、施用量を増やす。</p> <p>(3) 耕うんは播種直前に行い、県北部及び中山間部では10月下旬から、県南部では11月上旬から播種を行う。ただし、「ゆめちから」は10月下旬から播種を行う。 播種量は10a当たり、10月下旬で6kg、11月上旬で8kg、播種時期が遅くなれば、播種量を増やす。</p> <p>(4) 播種前に播種量、施肥量、播種深度を調整してから播種し、播種時に微調整する。播種後、排水溝の設置、手直しを行う。</p>
キ ャ ベ ツ	全 県 共 通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 秋雨前線の停滞により曇雨天日が続き、ほ場の滞水がみられる。また、今後の台風等の強風雨により、茎葉および根の傷みが心配される。</p> <p>(2) 適切な時期に追肥、除草を行う。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) ハイマダラノメイガは平年並の発生と予想される。</p> <p>(2) ハスモンヨトウはやや多い、シロイチモジヨトウはやや多い(一部地域で多い)発生と予想される。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 排水不良は生育を著しく遅らせるため、ほ場の排水に努める。特に強風雨で排水口付近にたまった土砂や降雨で崩れた畝は、管理機等で再度、谷上げを行う。 強風雨で茎葉が傷んだ場合、病害発生に注意し早期に防除する。</p> <p>(2) 結球開始初期の追肥は、畝肩または畝間に施用し、除草を兼ねて谷上げを行う。天候の合間を見ながら、遅れないよう計画的に作業を行う。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) 育苗期の加害は致命的なので、不織布や寒冷紗などにより本虫の飛来・産卵を避ける。</p> <p>(2) 本虫は、発生初期に対応する。被害が大きいのので早期防除に努める。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策		
果樹	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 降雨等による果実品質の低下に留意し、適期収穫に努める。</p> <p>(2) 傷果や腐敗果等の除去に努める。</p> <p>(3) 干ばつや台風での落葉等により、樹勢低下が懸念されるため、収穫後は樹体栄養の回復を速やかに図る。また、越冬病害虫の抑制を図る。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 熟度や果皮色等から、収穫適期を判断する。</p> <p>(2) 温州ミカンの日焼け果は裂果しやすく、病害の発生源となるので樹上選別で除去する。イチジクの落果や腐敗果は、ショウジョウバエ類の発生につながるため、できるだけ早く園外に持ち出し処分する。また、疫病等の発生状況によって出荷を一時停止し、臨機防除を行う。</p> <p>(3) 樹体栄養の回復を図るため、礼肥の施用、少雨時のかん水を行う。越冬病害虫の防除を行う。</p>		
		<p>樹種別の生育状況（9月下旬：南あわじ市）</p> <table border="1"> <tr> <td>温州ミカン</td> <td>夏期（7月～8月中旬）は晴天が続き、落葉など土壌の乾燥による樹勢の低下が見られた。8月下旬～9月上旬にかけて台風の影響で擦り傷、裂果が発生した。</td> </tr> </table>		温州ミカン	夏期（7月～8月中旬）は晴天が続き、落葉など土壌の乾燥による樹勢の低下が見られた。8月下旬～9月上旬にかけて台風の影響で擦り傷、裂果が発生した。
温州ミカン	夏期（7月～8月中旬）は晴天が続き、落葉など土壌の乾燥による樹勢の低下が見られた。8月下旬～9月上旬にかけて台風の影響で擦り傷、裂果が発生した。				

◎水稲・麦・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。

※本情報は、9月27日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（9月29日～10月28日）

[平成30年9月27日 大阪管区气象台発表]

【概要】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、多い確率60%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

【確率】

○気温、降水量及び日照時間



○各週の気温経過



(2) 近畿地方の向こう3か月予報 (10月～12月)

[平成30年9月25日 大阪管区气象台発表]

【概要】 向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

10月 天気は数日の周期で変わり、近畿太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

11月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

12月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。気温は、高い確率50%です。【確率】

○気温 【近畿地方】 □低い □平年並 □高い (単位:%)

	低い	平年並	高い
3か月	20	30	50
10月	20	40	40
11月	20	30	50
12月	20	30	50

○降水量 【近畿地方】 □少ない □平年並 □多い (単位:%)

	少ない	平年並	多い
3か月	20	40	40
10月	30	30	40
11月	20	40	40
12月	30	30	40

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」 <http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「Web 水稲生育予測システム」 <http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・「携帯用水稲生育予測」 <http://www.finds.jp/ricediag/kt/index.php>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」 http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078) 341-7711 (代表)
農産班: 主作・機械担当 内線 4074
農産班: 野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790) 47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html

(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)